

▼月刊 遊技通信

最新号

バックナンバー一覧

定期購読のご案内

バックナンバーのご購入

FAXサービスのご案内

広告掲載について

▼遊技業界データ

遊技業界の歴史

業界団体一覧

市場規模・参加人口

遊技場軒数

遊技機設置台数

プリヘイドシステム導入店舗数

▼メールマガジン

登録・解除

▼リンク

行政・業界団体

遊技機メーカー

周辺機器メーカー・販売社等

ホール

その他

▼会社案内

ごあいさつ

企業概要

企業沿革

お問い合わせ

トップニュース

全日遊連が依存問題相談の第三者機関設立 (2006.02.28)

全日遊連の全面的な支援で設立準備が進められていた、パチンコ依存問題のための相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク (RSN)」の設立記者発表会が2月23日、都内半蔵門のグランドアーク半蔵門で開催された。発表会には一般マスコミを含めて約40社が集まり、この問題に対する社会の関心の高さを示した。

全日遊連では平成15年4月に、社会問題化するパチンコ依存問題を「避けて通れない課題」として、依存症研究会を設立。ホールやファンを対象としたアンケート調査を行い、基礎資料をまとめるなどしていた。この資料を元に、全日遊連としてパチンコファンの過度ののめり込みにどう対応するかを協議し、パチンコ依存によって生じる問題で困っている人へのサポートとして、既存の医療機関や自助グループへの橋渡しをする第三者機関の設立を決議していた。

今回設立されたRSNは、日本で唯一の強迫的ギャンブル回復施設のワンダーポートの橋渡しで依存症研究会に参画した「あらかきクリニック」院長の西村直之氏が代表に就任。会見の席上、西村氏はギャンブル依存へのサポートには前例が乏しいとして、「とにかく窓口を開き、生の声を拾い上げながら課題を集積することから始めたい。その後は適切な対応方法を検討したり、専門知識を持った相談員を育成するなどし、回復支援プログラムを提供したり社会資源の整備の側面支援をしていければと思う」と述べるなどした。また、RSNの運営委員として参画した臨床心理技術者の安高真弓氏は「実際に相談を受けるなかで、そうした困った人たちが地域のなかで孤立しないようなサポートをしていきたい」と述べたほか、同じく運営委員になった司法書士の稲村厚氏は「この問題が表面化するのには借金の問題になってから。借金の問題として解決するだけではなく、本質的な原因の解決が必要。私の仕事としては、借金の問題として表面化したものを、パチンコ依存の問題としてこちら側につなげていくことと思っている」と述べるなどした。

RSNは事務所を沖縄県に構え、パチンコ依存で悩む本人や巻き込まれた家族等から、ソーシャルワーカーが4人体制でメールや電話等で相談を受ける。相談窓口は4月中旬に開設される予定。

ニュース・トピックス